

おなかが痛い

子どもが腹痛を訴えていたら、以下のことを参考にして対応しましょう。

- おなかがパンパンに膨らんでいるか、または硬くなっている。
- おなかを触ろうとしても、痛がって触らせない。
- 激しく泣いたり、ぐったりしたりを繰り返している。
- 股の付け根の部分が腫れ、青黒く変色している。
- 血便や激しい嘔吐、下痢も伴っている。
- おなかが痛くて歩けない。がまんできない。
- おなかを強くぶつけたあとに起きた。

1つでも当てはまった

早めに大和市救急医療機関を受診しましょう。

- おなかをさすっているうちに痛みがやわらいだ。
- 排便したら痛みがやわらいだ。
- 痛みの程度は、がまんできる程度のもの。
- 食欲・機嫌・顔色はいつもと同じ。

1つでも当てはまった

時間外なら様子を見て、通常の診療時間にかかりつけ医へ。

不安な場合は電話相談を。

ただし症状が悪化したら、すぐに救急医療機関を受診しましょう。

◆ 子どもがおなかを痛がっていたら、こんな点に注意して！

- ① まずうんちをさせてあげましょう。乳幼児では、やさしく「の」の字マッサージをする、綿棒で肛門を刺激する、浣腸をするなどがよいでしょう。
年長児は、トイレに行かせましょう。うんち後に腹痛がやわらげば、そのまま様子を見ても大丈夫です。
- ② おなかを触って痛む場所を確かめてみましょう。右下腹部を強く痛がる時は、虫垂炎（盲腸）の可能性がります。吐いてしまったり、発熱があるとき、腹痛が悪化する場合はとくに注意が必要です。
- ③ 腹痛が軽いときは、水分を少しずつ飲ませながら様子を見ましょう。ただし、柑橘系の飲み物や牛乳は避けましょう。痛みがやわらいだら消化によい食べ物を少しずつ与えましょう。

